

2023.10.19



地域日本語支援ニュース こだま 第436号

ともに生きる
～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★
【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

■ともに生きる：東京都武蔵野市より■

ヴィクトリヤさんの願い——ウクライナカフェ・クラヤヌィより——

三鷹駅に近い住宅街に今年2月18日に「ウクライナカフェ・クラヤヌィ（KRAIANY）」というカフェがオープンしました。日本ウクライナ友好協会（略称 KRAIANY）が運営しています。ウクライナ避難民のみなさんの働く場となっていると聞き、このカフェの設立、運営に尽力してこられたヴェレスクン・ヴィクトリヤさんにお話を伺いました。

以下、ヴィクトリヤさんのお話をまとめた形でお伝えします。

.....

◆カフェ設立の経緯

カフェを作ろうという案が生まれたのは、来日した避難民が働ける場として最適ではないかと考えたからです。避難民のほとんどが女性であること、日本語に不自由な状態であること、避難民だけでなく、日本のみなさんにも食を通じた交流の場になることが、大きなメリットになるという思いが私たちを突き動かしたのです。

◆ 親切的日本人との出会い

まずカフェの場所の確保など、最初はあれこれ不安がありました。そんな私たちの状況をよく理解し、場所を提供してくださる日本人が現れたのです。彼女は今でも何かと声をかけてくださり、温かい交流が続いています。

料理は、国でシェフをしている私の母から、オンラインできびしく！ 指導してもらえて、みんなのアイデアも取り入れながら、徐々に安定した運営の形が整ってきました。日本語が話せる私の役目は、今では避難民と日本人のみなさんの間でコミュニケーションを手助けするのが主となっています。

◆ 運命の出会いと私の日本語

2006年、外車展示ショーの仕事で初めて来日したのですが、そのキャンペーン中に運命的な出会いが起きました。展示場の私と話したい一心で、彼はありったけのお金をかき集めて、展示車を購入したのです。そして、帰国した私を訪ねてきて、私も母も「あれよあれよ?!」という間に、私たちは結婚し、日本に住むことになったのでした。

日本も日本語もまったくわからない私を支えてくれたのは主人でした。当時まわりに知る人も頼る人もいない中、まもなく子育ても始まり、日本語の教室に通う時間もない状態でした。そんな私に、主人はせっせとローマ字付きや絵付きのカードを手作りして家中に貼って、ことばのメモだらけにしてくれました。最初の2年ぐらいは、どんどんことばを覚えておもしろかったです。ただ、今でも苦手なのは日にちや数字などの表現です。慣れるのに5、6年かかりました。

◆ 大切な日本人の親友、ウクライナ人コミュニティにも出会う

最初の5,6年はウクライナ人と出会うこともなく、国のことばを忘れてしまうほどでした。孤独で寂しい日々を過ごしていた時、私に声をかけてくれる日本人がいました。私の大切な日本人の親友となる女性との出会いでした。さらにはウクライナ人コミュニティ「Kraiany」の存在を知り、活動に参加して、私の世界は広がっていきました。

◆ 今、日本のみなさんにお伝えしたいこと

これまで私は親切でやさしい多くの日本人に助けられてきました。心から感謝しています。私の国はご存じのように今たいへんな状態です。日本のみなさんにお伝えしたいこと、それは、自分の国の文化、伝統、それらに守られた日常をもっともっと大切にしてほしいということです。たとえば、お祭りであったり、着物を着ることであったり、料理であったり、さまざまなことがあるで

しょう。今思えば、ウクライナでは、戦争になる前、そうしたことがいつの間にか当たり前のことだと思って、おろそかになっていたという気がしてなりません。だから、みなさんにはぜひ自分の国の大切にしてきた文化、伝統、平和を考え、意識して行動してほしいと強く思います。それが国を大切にするにつながると思うのです。

私自身は、国が落ち着くまで、避難民のみんなが幸せな帰国ができるまで、一生懸命がんばりたいと思っています。

【インタビューを終えて】

カフェでお会いしたヴィクトリヤさんのとびっきりの笑顔とキッチンで働いているみなさんの明るい笑い声が印象的でした。きっと数えきれないご苦労や辛い思いがあると思うのですが、それを感じさせないホッとするような空気と時間の流れているカフェでした。

(インタビュー：編集委員 津田、小瀧)

(注)

ウクライナカフェ・クラヤヌイ：<https://www.kraiany.org/ja/cafe.html>

日本ウクライナ友好協会 KRAIANY：<https://www.kraiany.org/ja/>

2000年、在日ウクライナ人による非公式コミュニティ「Kraiany」を設立。
2021年、正式にNPO法人として登録を行い、日本ウクライナ友好協会 KRAIANY を設立。Kraiany の意味は同胞（どうほう）。

在日ウクライナ人のコミュニケーション、在日のウクライナ人の子どもたちやハーフの子どもたちの教育、教育イベントやワークショップなどを通して、ウクライナの文化や伝統を日本の人々にも知ってもらうことを目的として活動。

2022年2月、ロシアによる侵攻以降、食料・医療・医薬品等々の日本から本国への支援、さらには、日本に来た避難民の支援活動も開始している。